



DITAによるマニュアル作成の実際

シングルソース・マルチターゲットへの取り組み

現時点での状況

- DITAによるドキュメント(マニュアル)作成
 - 2012/7時点でユーザーズマニュアル(4製品×日/英)のDITA化を完了



大成功！

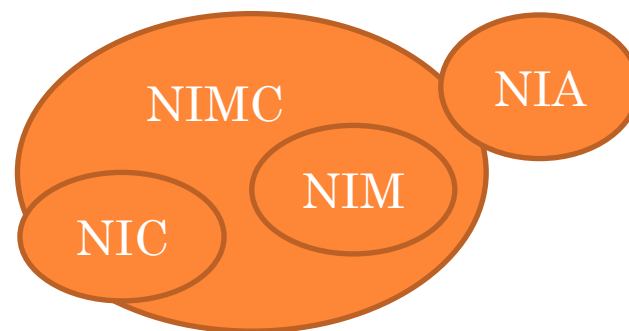


他ドキュメントのDITA化に邁進



背景

- Numerical Technologies Pte. Ltd.
 - シンガポール/東京
 - 従業員数:12人(部門なし)
- 金融リスク管理用ソフトウェア作成
 - 主力製品:4製品
 - NIC
 - NIM
 - NIMC
 - NIA
- 顧客
 - 銀行・商社・保険会社など10数社



ドキュメント作成要件①

○ ドキュメント種類

- ユーザーズマニュアル
- テクニカルマニュアル
- インストレーションマニュアル
- その他リファレンスマニュアル

○ 言語

- J/E

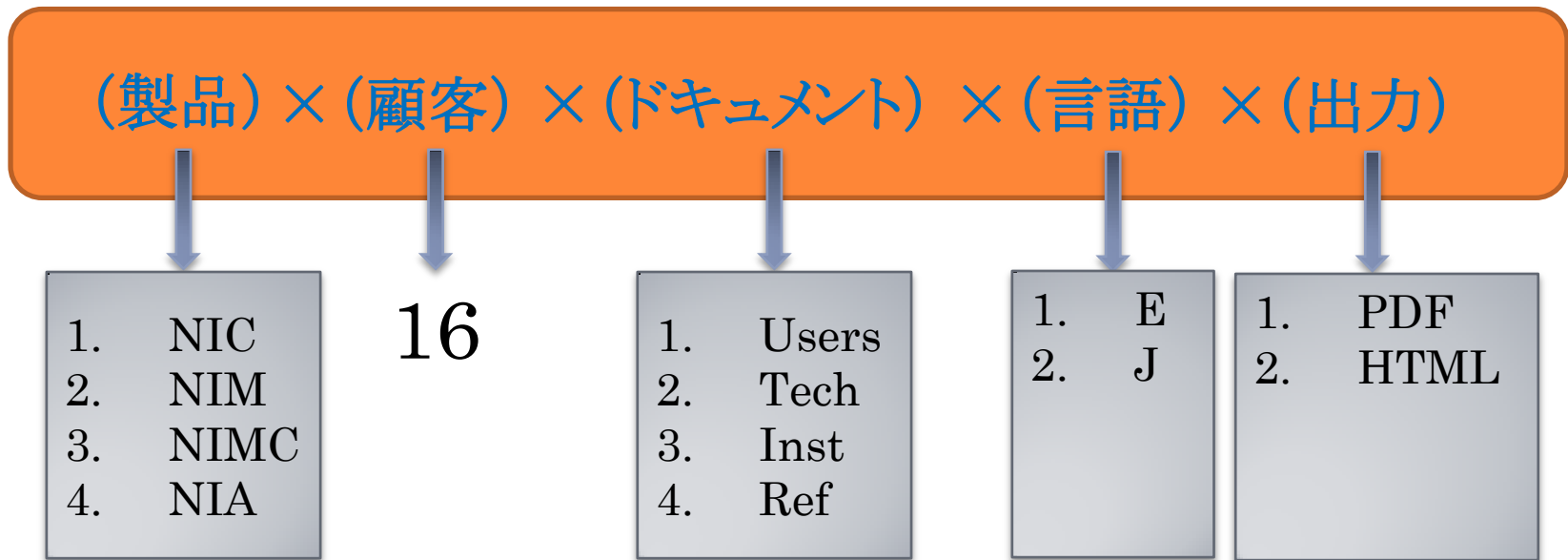
○ 出力形態

- PDFファイル(印刷)
- HTMLヘルプ(ユーザーズマニュアルのみ)



ドキュメント作成要件②

- ドキュメント作成パターン

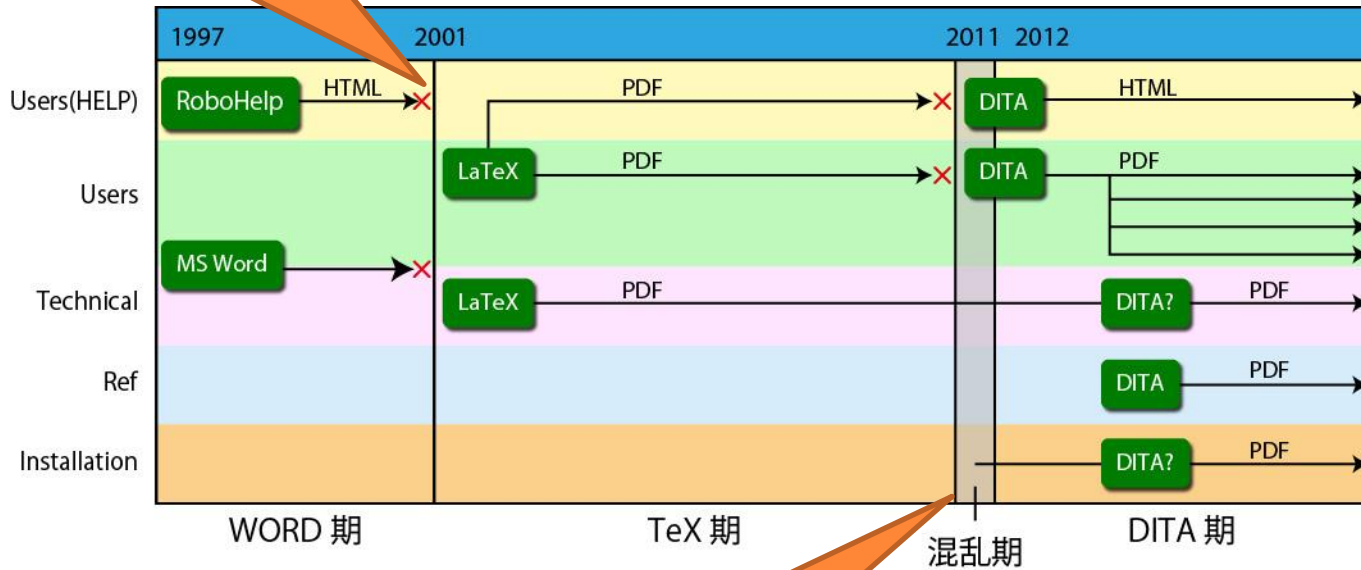


- バージョン別は考慮しない(SVNを活用)



DITAに至る道のり①

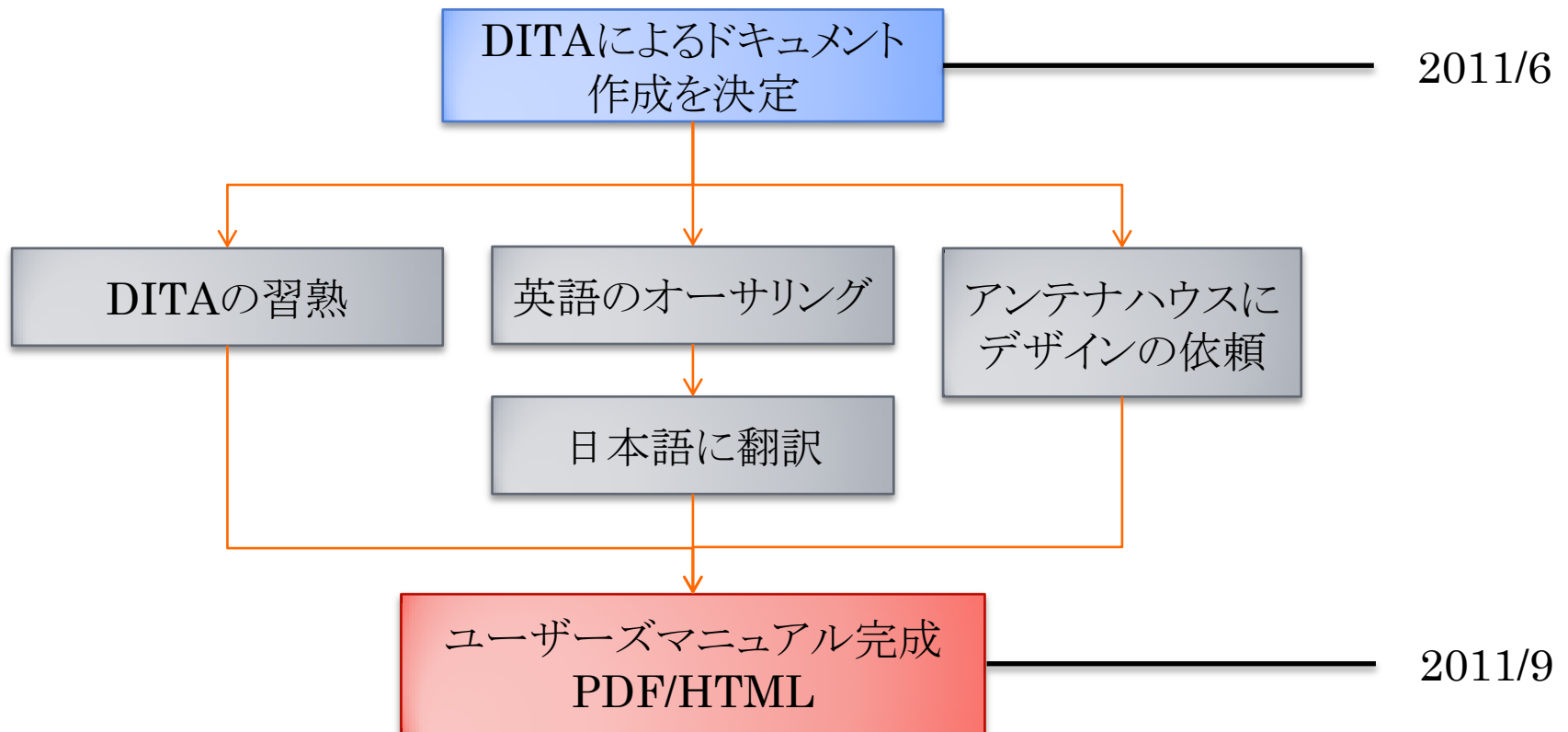
テクニカルマニュアル
の拡充



LaTeXの限界
海外展開

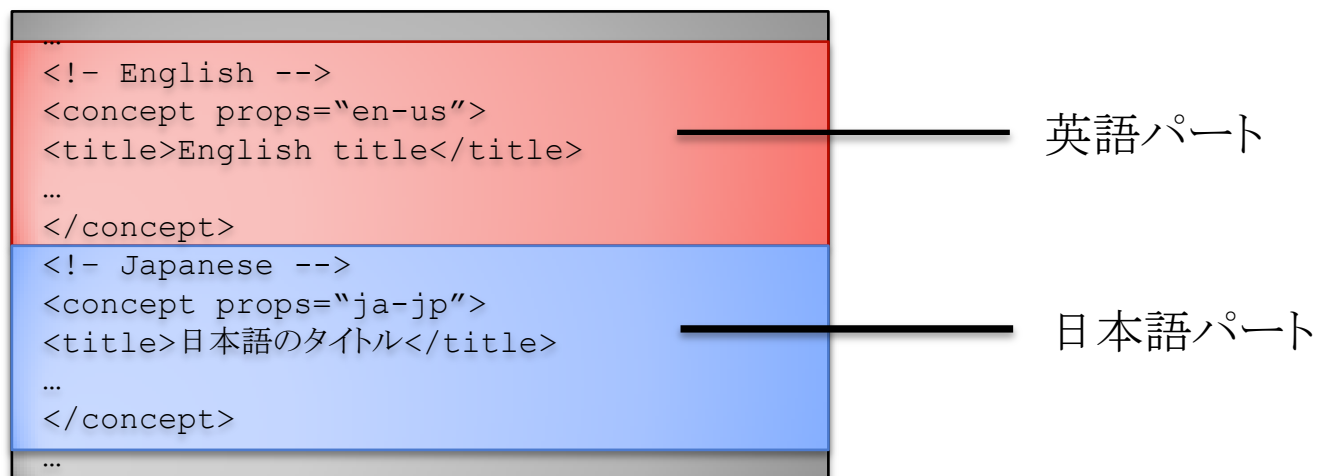


DITAに至る道のり②



DITAによるドキュメント作成①

- 1つの.ditaファイルに英語セクションと日本語セクション
 - 翻訳漏れ防止
 - ファイル数増加防止(.ditamapファイルの簡素化)
 - Conditionalで制御



DITAによるドキュメント作成②

○ Conkeyrefを最大限活用

- ありとあらゆる単語、フレーズ、絵をconrefソースに登録
- Conkeyrefを差し替えるだけで、他製品のマニュアルになるように (Ditamapは1つ)
- Conditionalはできるだけ使わない

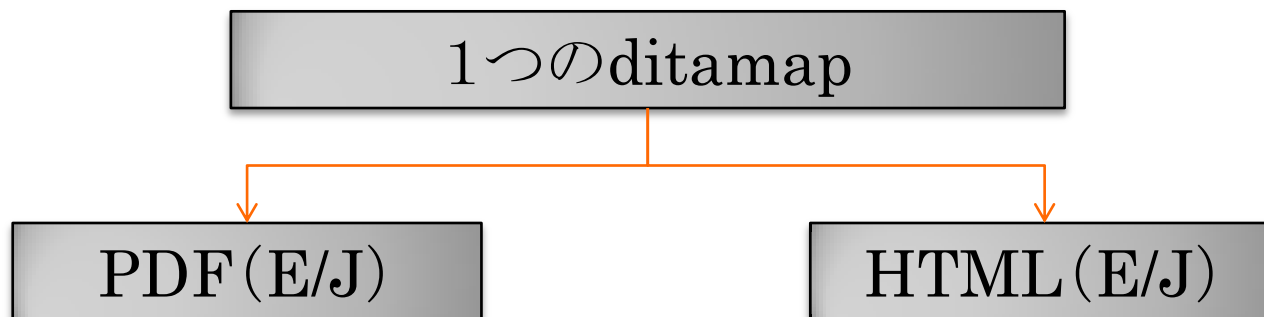
```
<!-- Frontmatter -->
<keydef id="TERM_PRODUCT" .../>
<keydef id="FIGURE_PRODUCT" .../>
<keydef id="CONSTANT" .../>
<keydef id="TERM" .../>
<keydef id="PHRASE" .../>
<!-- Mainmatter -->
...
```

```
<!-- English -->
<concept props="en-us">
<title><ph conkeyref="TERM/product"></title>
...
</concept>
<!-- Japanese -->
<concept props="ja-jp">
<title><ph conkeyref="TERM/poroduct_J"/></title>
...
</concept>
...
```



シングルソース・マルチターゲット実例①

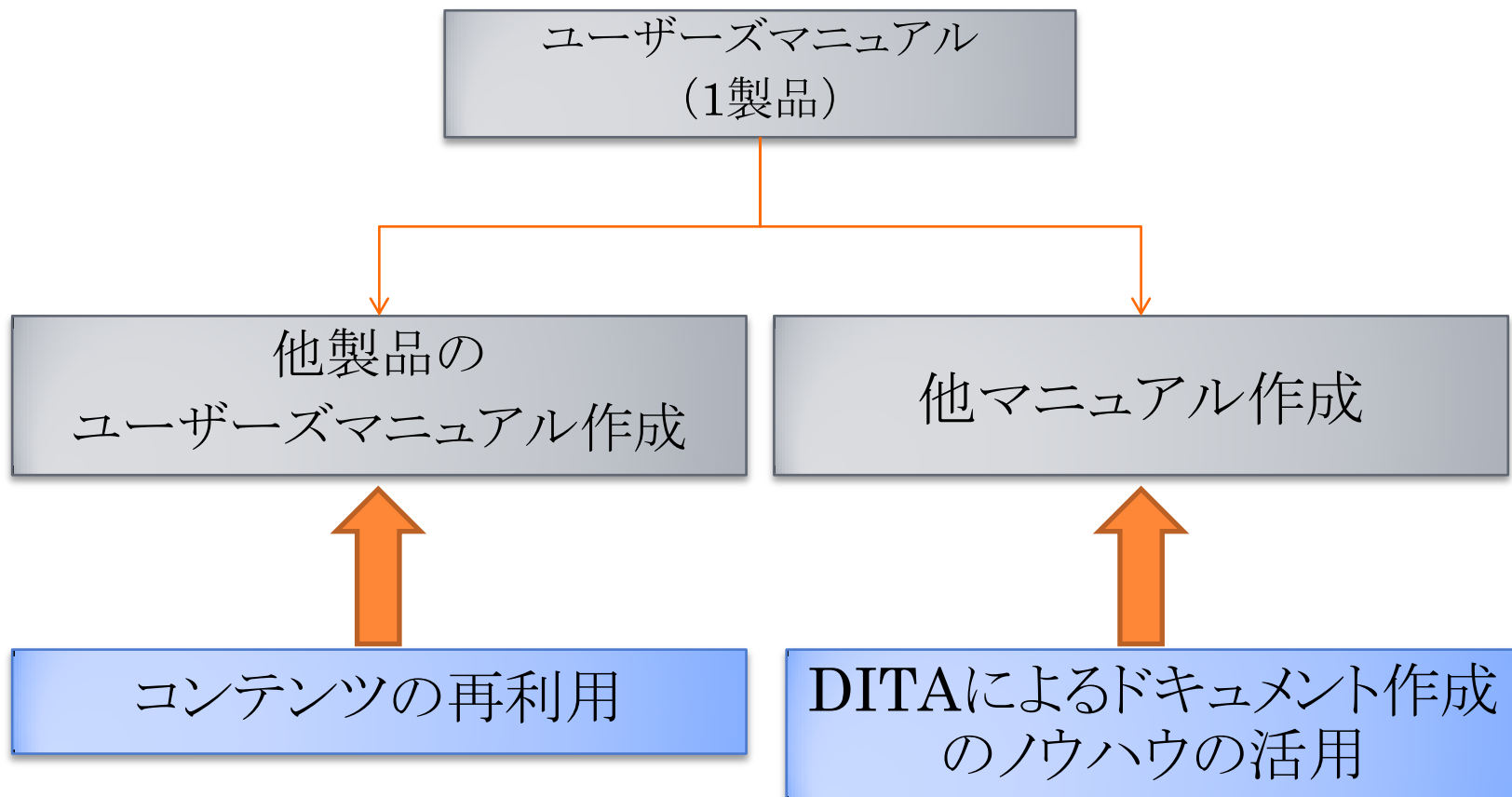
- Ditamapをターゲット別に複製
 - マスターファイルを1つ用意(ユーザーズマニュアルのマスター)
 - すべてのユーザーズマニュアルを一元管理
- ターゲットをデータベース化



DEMO



次の展開



シングルソース・マルチターゲット実例②

- DITAソースから図表のリストを取得
 - DITAソースファイル中の
`<image conkeyref="****"/>`
を読み取り、リスト化
 - リファレンスエラーを回避
- 図表のファイル名でターゲットを管理
 - 製品別・顧客別に管理
- 全製品、全顧客別に図表のconrefソースを作成

Sample



シングルソース・マルチターゲット実例③

- プログラムからDITAソースを作成
 - プログラムこそがソース
 - プログラムとマニュアルの乖離を回避

Sample



今後の課題・展望

- 引き続きオーサリング (他ドキュメント)
- 他ドキュメント用スタイルファイル
- ドキュメント作成プロセスの簡素化
 - データソースの統一
 - 操作の統一



ありがとうございました

